

rara-ca

Vol.07
2024 AUTUMN
セントラル愛知交響楽団
特別情報誌

音合わせ心ひとつに「ら」でチューニング… Central Aichiの情報をお届け

「第九」シーズン到来!

セントラル愛知交響楽団

市民合唱団による
悠久の第九

ベートーヴェン：劇音楽「エグモント」序曲 Op.84
ヴェルディ：オペラ「椿姫」より“ああ、そはかの人か”〔飯田みち代〕
プッチーニ：オペラ「トゥーランドット」より“誰も寝てはならぬ”〔福井敬〕
ベートーヴェン：交響曲第9番ニ短調 Op.125〔合唱付〕

ソプラノ/飯田みち代 メゾ・ソプラノ/谷口睦美 テノール/福井敬 バリトン/加未徹



12/19(木) 悠久の第九

〔開演18:30〕
愛知県芸術劇場コンサートホール
〔出演〕小松長生、飯田みち代(S)
谷口睦美(Ms)、福井敬(T)
加未徹(Br)

セントラル愛知の第九

年末に向かい今年もベートーヴェン交響曲 第9番(第九)のシーズンがやってきます。今年は5年ぶりに「市民合唱団による 悠久の第九」を開催します。当団の第九演奏の歴史を振り返りますと…1983年にナゴヤシティ管弦楽団として発足し、4年後の1987年に第1回の第九演奏会、翌1988年に第1回定期演奏会という記録があり、定期演奏会よりも先に第九

演奏会を開催していたことがわかります。その後は「市民合唱団による第九の夕べ」として演奏し、21世紀となった2001年に、長く続ける意を込めて「市民合唱団による 悠久の第九」へタイトルを変更しました。4人のソリストと公募による市民合唱団の歌声で、毎回熱い演奏をお届けしています。今年もご来場の皆様に素晴らしい演奏をお聴きいただけるものと考えております。ホールいっぱいに響き渡る「歓喜の歌」、ぜひご体感ください。

◆時を超えて、愛をつらぬく閃光のような音楽——「悠久の第九」に向けて

もっぱら「第九」という愛称で知られる傑作——年末を迎えるとあちこちで上演されて、誰でも口ずさめるレベルでおなじみの作品でしょう。むかし記事を書くために調べたら、12月だけで153回もの〈第九〉公演がおこなわれていてびっくりしたことがありました。その後、景気の変動などで減りはしたものの、歳末の風物詩のように広く愛される音楽であることは変わりません。

オーケストラと共に有名な《歓喜の歌》が歌われる終楽章では、その日のために声を磨き抜いて挑む、地元の優れた市民合唱団が参加したりと、地域密着型の公演も各地でおこなわれてきました。〈年末の第九〉が、日本の合唱文化や音楽愛好家の裾野を豊かに広げてきた意義は、決して小さくありません(だからこそ、コロナ禍で大規模な合唱作品の上演が出来なくなっていたのは、本当に痛恨の事態でした…)

《歓喜の歌》と俗称されますが、この歌詞となった詩《歓喜に寄す》を書いたのは、ドイツの詩人・劇作家・思想家シラー(18世紀ドイツで文豪ゲーテと並ぶ大家でした。余談ながら、太宰治が彼の詩をもとに書いたのが有名な『走れメロス』)。熱い人類愛をうたったこの詩は、1786年に発表されると大反響を呼び、ドイツ各地で〈飲み歌〉として歌われ、研究によるとその後50人を越える作曲家が曲をつけているほどの大衆歌となっていたとか。

作曲家ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)も、このシラー《歓喜に寄す》に魅せられた一人でした。彼は青年時代からこの詩に曲をつけようと折に触れてスケッチを始め…聴覚の障害や芸術的な苦闘を超えてゆく

か、彼のスケッチブックには幾度も《歓喜》のメロディが浮かんで消えてゆきます。それが〈第九〉のフィナーレの大合唱へと組み込まれて実現するまで、なんと30年近くかかってしまいました。

大衆歌としておなじみだったシラー作品を、作曲家は壮大な交響曲の終楽章に据えます。—— 声楽が現れるまでの3楽章は、オーケストラが全力で表現する崇高な音世界。冒頭からインパクトも絶大ですが、鮮やかに躍り駆ける第2楽章の壮大なスケールといい、続く長大な第3楽章の、たおやかな光が溢れ流れる、美しく安らかな音世界も絶品。そこから一転して、終楽章だけ声楽を加えて、さらに劇的な展開をみせます。もろびとの抱き合う歓喜の世界、全世界に放たれる美しい神の閃光…

この〈第九〉—— 交響曲 第9番 ニ短調 作品125《合唱つき》が発表されたのは1824年のこと。そう、今年が〈第九〉が世界初演されてからちょうど200年、という節目の年にあたります。ホールを大きく包み込む歓喜の融合に、言葉と音が共に抱き合うこの傑作は、闘いやまめ現代においてこそ、深いメッセージを響かせるでしょう。悠久の第九は、生きているのです。

山野雄大/ライター[音楽・舞踊評論]、『音楽の友』『バンドジャーナル』など雑誌・新聞への寄稿をはじめ、NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」他ラジオ出演も。第一生命ホールでのコンサートシリーズ《雄大と行く 昼の音楽さんぽ》ナビゲーターを務めたほか、CD解説、オーケストラやバレエ公演の解説、歌詞対訳など多数。朝日カルチャーセンター新宿教室でバレエ音楽講座を開設中。

〔料金〕S¥6,000 A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000 ※U25各席半額

